

塩の道其の二

工佐塩の道保存会

2年前の春、公文寛伸さんら有志8人が庄谷稻の山で長い間、休むたままになっていた丁石を掘り起こし復元の第1歩が始まりました。文献を調べ斜面に階段と設け標識を立て、埋もれていた道を整備。旅の安全と祈った道中の馬頭観音も修復した。思えば文化峠を越えて香南市に届き、同市側から整備着手した。丁石跡と下どり、直敷所や国指定の文化財を經由し、2006年に全線30キロの再整備を完了し、香南市と香南市の有志らで「工佐塩の道保存会」が結成された。
(高知新聞記事より)

寒の神塔

道祖神で峠道とか村境などに置いた。ウエノカミ(は)マエノミという意、味で、女神(鬼神)と寒を系合うハヤリ病など入りこまはりに建てられたもの。

君子方神社

天皇谷

馬止

文化峠

お大師岩

千萱

佐敷

見渡し地蔵

久保川

寺跡の井戸

金比羅跡

丁石

黒見休憩所

竹弁当

盆舟の竹弁当(盆舟は、盆舟の竹を削り、タケノコゼンマイ、昔の盆舟にゼンマイ、盆舟の花も添えられている。)

熊玉山丁石は東西に塩の道南北に香南市の塩の道は、熊玉山の四ツ辻

とるとろど塩の道

時代を超えて塩の道どこから何が見えても人の笑顔がゆき、明るい光が見えても

アサリ、山吹、春リンドウ、黒見の桜、一休み、山のいろどり、あじやかな、おぼやん手作り竹弁当

くねくね続く塩の道、命をつなぐ塩の道、時を結ぶ塩の道

平家ヶ森、塩の道歩きはるといって高く見える。山頂に石灰岩の穴が、平家の岩屋と呼ばれている。平家の落人が住んでいたと伝わる。ふたの鏡谷は、平家と源氏の戦いがあったといわれる。

泡ヶ瀬、見渡し地蔵、昔の川には橋がなく、石で川を渡っていたためとても危なかつた。増水や事故で亡くなった方の御霊を弔い、地域をすくめ、往来する旅人たちの安全を祈願するために、川岸に建立されている。左岸と右岸から見守り、下る。見る。

昔から北向の地蔵様は、大変えらいといわれている。昭和30年頃までお祭りが行われ、前の河原で踊り、賑わっていた。

千萱の武家の門前には、たさか一反ほどもある底が、知れない。大きな淵があり、いつも無気味な淵を流す。蛇神が住んでいるといわれている。

ハジヨウ、道教の「道はべ」といわれる昆虫。ハジヨウは歩く人の前をくわ〜と飛び、着地しては、待ってまた同じように、数回繰り返す。ハジヨウは、道徳の象徴として、大切にされている。

春はヤマザクラの咲く森を抜け、夏は虫軍時雨に耳を澄ませ、秋は彼岸花や紅葉を楽しみ、凍てつく冬は霜柱を踏みながら...昔の人は厳しくつらい道のりの中にも何かの楽しみを見出し、この道を歩いて行、たことだろ。

出典: 参考文献(1~3) 塩の道案内帖、香南市の暮らし(小中高校校報)、高知新聞、とるとろど塩の道、作詞 中谷元、新編の(川)(学校校報)



あぐりの里

岩

寒の神塔

馬頭観音

西川花公園

馬頭観音

店屋跡

文化宿場跡

蛇淵

見渡し地蔵

久保川

寺跡の井戸

金比羅跡

丁石

黒見休憩所

